「根を張れ、見渡せ、手を伸ばせ」
（詩篇 125 篇）

牧師：原　雅幸

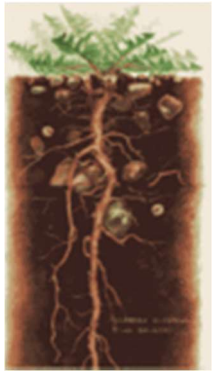
序）都上りの旅を続ける巡礼者の歌

・行くべき先を知っているなら人生は「都上り」の旅であり、週、月、年のサイクルで繰り返される礼拝から礼拝へと進む。

1）「根を張れ」1 節

・「シオンの山」＝エルサレム神殿が建てられている小高い丘。主の臨在（神殿）がもたらす安定感が揺らがない人格の比喩として目標とされている。
・「山」の対義語が「海」…不安定で、感情や情報の風に振り回される状態。
・植物のたとえを用いれば、「根を張る」こと。主に信頼することで、根を張る「歩く樹木」として旅を続ける。Cf.「たんぽぽの根にならって」

2）「見渡せ」2 節



・エルサレム神殿に立って目を上げると、四方を山々が囲んでいる。礼拝の場は天然の城壁に守られている。
・心の目は下向きになりやすい。そこでは自分のまなざしが一番高くなる。自分の見えている範囲が世界のすべてになる。しかし目上げると、自分より偉大な方に心が向く。小さくても愛されている自分を見出す。
・「すでに与えられている神の助けや守りがどこにあるか」を見渡すこと。

3）「手を伸ばせ」3 節～5 節

・３節前半「というのは悪の杖（＝支配）が正しい人の割り当て地（＝生活世界）の上に休むことなく働くからだ。」これが詩人（私たち）の現実
・本来、私たちは「割り当ての地」で、安息を得て生きることができるはずだが、今はそうではない。強風は吹き荒れる。
・「手の伸ばし方」が問題になる。まっすぐ神様に手を伸ばす（祈る）のではなく、神以外のものに頼ろうとしてしまう結果、道は曲がり、歪む。
・４節の祈りが「まっすぐな手の伸ばし方」である。自分のことではなく、他の信仰者のために祈ること。自分のことは別の人に委ねる。こうすることで、祈りさえ自己中心に染まる危険性から守られていく。
・５節「曲がった道にそれる者ども」は自分の中に存在する欲望である。

結）旅のゴールはシャローム

・「イスラエル」…平和は、今日、神を愛するすべての人の上に！

名前（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 「シオンの山」とは、どういうところでしょうか。正しいものに○をしましょう。

（　　）イスラエルで一番高い山である。
（　　）周りを山に囲まれた安全な場所である。
（　　）礼拝するところ（神殿）がある（あった）。
（　　）安定している心のたとえである。

② 詩篇125篇で教えられている3つのことはどうすることでしょう。線で結びましょう。

根を張る	・	・ 神様の守りがどこにあるか探す
		・ 地面をよく見て、深く考える
見渡す	・	・ 神様に信頼することを繰り返し選ぶ
		・ 友だちが神様に助けてもらえるよう祈る
手を伸ばす	・	・ 周りの人の考えに自分を合わせる

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

③ 友だちのために祈ることは、どうして大切なのでしょうか。

～教会クイズ（教理問答）～

Q041　第一戒は何ですか。

A041　「あなたには、わたし以外に、ほかの□□があってはならない。」です。わたしたちが、ただ□□□のまことの神さまにだけ拠り頼み、この神さまだけを□□□

礼拝ノート

日	年　月　日	聖書	
題		名前	